



25年度予算案に弾薬庫の新設費を計上

防衛省が2025年度の予算案に、他国を攻撃するミサイルを格納する弾薬庫の新設費用を盛り込んでいることがわかりました。

建設が予定されているのは、北海道の多田分屯地、京都府の祝園分屯地、大分県の大分分屯地、沖縄訓練場など計13ヶ所46棟に及んでいます。また、鹿児島県さつま町での新設の設計費などが計上され、整備費は336億円に達します。

政府は保管する弾薬の種類を明らかにしていませんが、2025年度にはアメリカ製の長距離巡行ミサイル「トマホーク」が国内に配備される予定です。

北海道	近文台分屯地	1棟
	足寄分屯地	1棟
	白老分屯地	1棟
	多田分屯地	2棟
青森県	大湊地方総監部	6棟
京都府	舞鶴地方総監部	3棟
	祝園分屯地	11棟
長崎県	佐世保地方総監部	3棟
大分県	大分分屯地	5棟
宮崎県	えびの駐屯地	3棟
	鹿屋基地	2棟
鹿児島県	瀬戸内分屯地	3棟
	沖縄訓練場	5棟

2025年度予算案で建設が予定される弾薬庫

北海道から沖縄まで 日本中が自衛隊の弾薬庫だらけに！

有事には弾薬庫が標的に

政府は2032年までに全国に大型弾薬庫130棟を増設する予定です。有事になれば、弾薬庫は真っ先に敵国からの攻撃目標となる可能性があります。

憲法九条では、国際紛争を解決する手段としての武力の放棄を明確にしており、大型ミサイルなどの「敵基地攻撃能力」を持つことは憲法違反であるうえに、自衛隊基地周辺住民の生活と安全を脅かすものです。

「戦争国家」づくりに反対し、各地の弾薬庫建設を地元住民とともに阻止しましょう。

核兵器は使わせない
国際社会の団結で

終末時計が過去最短の「残り89秒」に！

アメリカの化学雑誌『ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト』が、「人類最後の日」までの時間を示す「終末時計」を1秒進め、今までで最も短い「残り89秒」と発表しました。

1秒短くした理由として、核兵器が使用されるリスクが高まり続けていることと気候変動をあげ、2024年は記録上最も暑い1年だったが、長期的な対策が不十分だと指摘しました。

ノーベル平和賞受賞者でコロンビアのサントス元大統領は「トランプ大統領が地球温暖化対

策の国際的な枠組み、パリ協定から離脱する意向を示したことを非常に憂慮する」と述べ、時計の針を戻すには国際社会の団結が必要だと訴えました。

日本でも石破首相が「米国との核共有」の必要性をふりまく一方で、政府は夏の猛暑に対策のないまま「大阪万博」を強行開催しようとしています。終末時計の針を戻すために、自公政権に「NO」の声をあげ、国際社会に団結しましょう。



kyodo-center.jp